KeePer LABO

2014年7月総括

今年の7月前半は梅雨の影響で雨の日が多く、来店台数が少なく苦しいスタートでした。しかしながら、その中でもアラカルトの窓ガラスコーティングや車内清掃など、梅雨だからこその商品が多く販売されました。
結果、アラカルトの収益が前年対比120%となり、実績を支えています。
梅雨明け後はたくさんのお客様が来店されました。洗車台数は98.7%と全店合計で前年対比を超えることはできませんでしたが、コーティング施工台数（クリスタルキーパーとダイヤモンドキーパー）で114.9%と全店合計で前年対比を超え、コーティング需要が雨にも強いことを証明してくれました。最終的に前年実績がある店舗で108.9%まで挽回しました。
キーパー選手権が始まり、キーパーLABOも目標を持って盛り上げていきたいと思います。
今年の夏もとっても暑くなりそうですが、熱く、たくさんのお客様に喜んでいただきたいと思います。

東日本事業本部　鈴置　力親
西日本事業本部　畠中　修

※この表はLABO直営店とFCの高松西店・新潟県庁前店（計33店舗）の数字です。　※ダイヤ・アクアの台数に、メンテナンスは含まれていません。

7月	順位（位）	コーティング台数（台） クリスタルキーパー	ダイヤアクア	売上金額（円） 洗車・コーティング	一般 アラカルト	室内関連	業販	板金・その他（円）	合計（円）	前年対比（%）	人時生産（円/時）
① 札幌	4	124	22	4,530,096	1,088,394	259,642	508,999	818,810	7,205,941	105%	6,120
② 新潟県庁前	33	39	10	1,571,973	359,525	22,635	45,297	9,429	2,008,859	—	3,986
③ さいたま	29	48	13	2,542,030	533,366	163,260	19,446	29,666	3,287,768	187%	4,944
④ 浦和美園	15	79	17	3,740,958	616,164	222,471	94,818	20,732	4,695,143	113%	5,081
⑤ 草加	3	90	31	5,899,736	871,108	317,763	40,651	121,152	7,250,410	144%	5,595
⑥ 船橋	27	54	16	2,728,139	479,712	175,960	0	141,261	3,525,072	112%	5,390
⑦ 柏	19	71	15	3,383,171	728,262	207,455	26,964	2,093	4,347,945	105%	5,124
⑧ 松戸	9	65	18	3,577,589	814,621	349,574	243,173	524,724	5,509,681	108%	5,013
⑨ 松戸東	23	48	12	2,919,457	706,438	287,652	0	28,560	3,942,107	105%	5,242
⑩ 足立	1	117	25	6,314,971	1,260,256	486,904	125,653	27,248	8,215,032	119%	5,368
⑪ 板橋	5	93	23	5,362,165	1,112,729	315,542	62,474	13,228	6,866,138	112%	5,471
⑫ 世田谷	11	74	24	4,194,695	876,495	229,658	9,260	156,389	5,466,497	105%	5,226
⑬ 八王子	2	118	30	5,901,987	1,489,418	323,502	179,153	4,814	7,898,874	111%	6,164
⑭ 相模原	10	91	17	4,293,952	908,836	299,228	0	0	5,502,016	104%	5,339
⑮ 上溝	14	78	15	3,995,282	853,529	246,858	0	3,338	5,099,007	108%	5,089
⑯ 豊田	17	66	14	3,020,667	910,934	219,678	94,529	169,199	4,415,007	106%	4,930
⑰ 岡崎	13	80	16	3,341,046	940,585	294,093	510,464	70,482	5,156,670	92%	5,596
⑱ 安城	18	35	21	3,240,879	713,813	314,877	10,436	90,236	4,370,241	87%	5,212
⑲ 知立	22	54	14	2,560,189	697,219	274,284	374,383	214,381	4,120,456	106%	5,516
⑳ 刈谷	20	71	8	2,768,425	866,698	263,422	244,883	180,533	4,323,961	79%	5,072
㉑ 半田	32	35	8	1,611,221	236,050	102,984	77,948	142,320	2,170,523	—	3,178
㉒ 大府	8	52	18	3,733,960	1,515,695	262,972	42,288	28,836	5,583,751	105%	5,701
㉓ テクニカル	30	10	3	373,949	131,617	6,529	0	2,354,279	2,866,374	124%	3,654
㉔ 東海	6	57	18	4,021,314	1,477,844	251,138	70,616	52,946	5,873,858	110%	5,756
㉕ 鳴海	24	59	11	2,749,739	733,704	182,429	106,632	138,682	3,911,186	104%	5,076
㉖ 大須	7	74	27	3,293,171	976,288	236,230	1,015,667	67,556	5,588,912	105%	6,461
㉗ 中川	21	39	20	2,543,810	1,093,957	149,586	344,896	78,022	4,210,271	114%	5,670
㉘ 碁目寺	25	54	8	2,708,721	793,835	287,848	31,624	60,393	3,882,421	111%	5,042
㉙ 一宮	28	52	12	2,542,513	464,359	150,012	126,412	22,826	3,306,122	111%	5,028
㉚ 鈴鹿	12	64	34	4,416,835	492,590	245,242	173,246	68,682	5,396,595	121%	5,229
㉛ 宝塚	31	33	10	1,820,718	499,449	99,135	0	1,970	2,421,272	—	3,548
㉜ 新涯	26	53	11	2,728,443	595,737	190,560	7,000	16,279	3,538,019	109%	4,116
㉝ 高松西	16	34	16	2,804,094	1,534,713	77,235	0	62,314	4,478,356	86%	5,142
総合計		2,111	557	111,235,895	27,373,940	7,516,358	4,586,912	5,721,380	156,434,485	—	5,124
前年対比		116%	113%	113%	120%	103%	94%	112%	113% ★108%		109%

★前年実績のある店舗のみの値です。

SUPER GT REPORT

堂々2位!!
シリーズトップに躍り出る!

7/20（日）SUPER GT 第4戦 SUGO

雨が降り出すも、スリックタイヤのまま勝負。徐々にタイムを上げていく

決勝は、フォーメーションラップ中に雨が降りだし、2周追加された。早々にピットに入り、レインタイヤを装着する車両が続出する。37号車は、スリックタイヤのままコースに留まり、スタート時は3番手。このままグリーンシグナルが点灯し、オープニングラップで前を走るNSXを1台かわし2番手へ躍り出た。
2周目は、ピットインするか注目されていたが、そのまま走り続け、マシンをスライドさせながらも首位を行くマシンをかわし、暫定トップとなった。スリックタイヤのままで辛い状況が続くが、タイヤが温まるとともにタイムを上げていく。そして、数周した頃には段々と雨も上がり、多くの車両がスリックタイヤに再度交換する状態となった。まさに、「作戦勝ち」だ。その後、レースは37号車を先頭に、レクサス勢の1-2-3体制で進む。しかし、300クラスの集団を抜かす際、押し出され2位に後退してしまう。
その後は首位に立った1号車が逃げる展開が続き、アンドレア・カルダレッリは、後半スティントを走る伊藤大輔へ。一つでもよい順位でマシンを渡すために、2位をキープする。そして、レースがちょうど折り返しとなる38周目にピットインをする。

各チーム次々とタイヤチェンジ。スリックのままひたすら走り、スピンを起こすも2位表彰台へ

天候が読めない中、レース後半を担当する伊藤にドライバーチェンジをした37号車は、周りのチームの様子を見つつ暫定6番手でコースに復帰。そこから15周程して、各チームがタイヤ交換のためにピットインを始める。その時には、もう一度レクサス勢の1号車、37号車、6号車での首位争いに戻っていた。
SUGOのドラマはここから激しい展開を見せる。レースが残り15周となった所で、またも天候が崩れだし、激しい雨が降り始めるが、残り周回数を考えると、トップ勢は、この段階でタイヤを変える事はリスクが高く、なかなかピットインへ踏み切れずにいる。そんな中、たまらず3位を走る6号車がピットに飛び込むと、それを待っていたかのようにいくつかのチームがタイヤチェンジをするためにピットインをしていく。首位1号車は後続とのギャップが大きくあり、同じタイヤのままコース上に。
2番手から優勝を狙う37号車KeePer TOM'Sは1号車がピットインかミスをする最後のチャンスに賭け、スリックタイヤのままひたすら我慢の走りを続けた。その間、37号車もスピンを起こした。タイヤを変えハイペースで3番手が迫ってくる。前半戦最後のレースは惜しくも2位表彰台という結果となった。
この結果、37号車KeePer TOM'Sは、現段階で年間シリーズランキング1位となり、8月の灼熱、富士・鈴鹿決戦へと進んでいく。